

「潮流発電」 実用化目指す

ベンチャー企業「ヴァアエネルギー」(三木市加佐)の社長、鈴木清美さん(55)が、潮流を利用した「潮流発電」の実用化を目指している。今年2月に明石海峡で行った試作装置の実験では、200ワットの発電に成功した。海に囲まれた日本で、太陽光や風力とともに自然エネルギーによる発電方法として開発が注目されている。

明石海峡で実験成功 試作装置で200ワット



「潮流のエネルギーを利用した発電を実用化したい」と話す鈴木清美社長 三木市で

を考えるようになって、ペラの形をしたプロペラを使い、約3ワットの電力が得られた。実用化計画では、潮流の速い海域に海洋構造物を建設し、試作品より大型のプロペラで500キロワットを発電する。電力は海底ケーブルなどで陸上に送る。1億〜2億円といわれる建設費の捻出が大きな課題となっている。

三木のベンチャー「ヴァアエネルギー」

鈴木さんは「48基のプロペラを付けた発電プラントを造れば、2万4000キロワットの発電が可能になる」と話している。

潮流発電の国内での実用化例としては、明石海峡で第5管区海上保安本部(神戸市)が02年に採用した夜間に航行する船舶向けの浮標(ブイ)がある。

【南良靖雄】